



Title	巻頭言：10周年を迎えて
Author(s)	白木沢, 旭兎
Citation	北方人文研究 = Journal of the Center for Northern Humanities, 11: 1-1
Issue Date	2018-03-31
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/70069
Type	bulletin (other)
File Information	11_01_preface.pdf



[Instructions for use](#)

巻頭言 — 10周年を迎えて —

『北方人文研究』第11号をお届けします。北方研究教育センターは、2007年4月に設立され、ちょうど10周年を迎えました。本号では、通常通りの投稿による論文を掲載するとともに、特別企画として、津曲敏郎名誉教授に「『北方的』なるものをめざして—北方研究教育センターの創設期と今後—」をご寄稿いただき、さらに11年間の活動記録、構成員一覧、総目次を掲載いたしました。

津曲先生は『北方人文研究』収録論文について「考古学、歴史学、文化人類学から芸術学まで多岐にわたるが、何と云っても言語学の論考が群を抜いて多い」と指摘されています。そこで、総目次を用いて数えてみると、以下ようになっていました。これまで11年間（第1号から第11号）の論文57本、研究ノート19本、特別寄稿論文2本、計78本について、その分野別内訳を調べたところ、言語学52本（66.7%）、文化人類学10本（12.8%）、歴史学9本（11.5%）、考古学4本（5.1%）、美術史3本（3.8%）という結果です。言語学—北方言語学に関する論考が圧倒的に多かったのです。これまでの北方研究教育センターの活動が、文学研究科の擁する多様な研究分野のなかでも言語学（北方言語学）を中心として行われてきた、ということは大きな特徴と言える点でしょう。

総目次に基づく統計をもう一つ紹介すると、日本語で書かれた論考は56本（71.8%）、英語で書かれた論考は22本（28.2%）となり、日本語雑誌であるにもかかわらず、英語論文が一定数あることが特徴です。このことは、言語学分野において顕著であり、言語学分野の論文52本のうち18本（34.6%）が英語で書かれています。『北方人文研究』は基本的に全論考をHUSCAP（北大リポジトリ）によりインターネット公開していますが、英語論文の場合には、世界中の研究者に寄与するところは大きいと思われれます。北大のHUSCAPは、日本の大学リポジトリのなかでは老舗ともいえる存在ですが、『北方人文研究』は、紙媒体およびHUSCAPを通じて日本国内はもとより世界中の研究者に届けられています。

さて、北方研究教育センターの今後についてですが、課題は明確であると思います。言語学分野でつくりあげてきたネットワークを引き続き維持しながら、これまで少数派に甘んじていた文化人類学、歴史学、考古学などの、文学研究科が擁する研究分野についても活動を強化すること、です。さらには潜在的に北方研究に縁がありながら、北方研究教育センターの活動には結びついていない研究分野についても、幅広く目配りし、文字通り北方に関する人文・社会科学の研究拠点となることを目指します。

10周年の節目を迎え、これまで論文の寄稿、講演・シンポジウム等への登壇、参加などご尽力くださった多くの方々に感謝いたします。

平成30年1月30日
北海道大学大学院文学研究科 北方研究教育センター長
白木沢 旭兎